

パーソナルコンピュータのご用意のお願い

木更津高専では、学校からの諸連絡や諸手続き、非常時のオンライン授業等への参加などのために、学生の方々にパーソナルコンピュータ(以下 PC と略記します)のご用意をお願いしております。電子制御工学科での学習に際して必要な PC 性能の目安は、**キーボードによる文字入力** ができること、実用的な速度で **簡単な文書作成や表計算**、**一般的なホームページの閲覧** ができることです。これらを満足する PC を、学生本人が授業時間帯(おおむね 8 時～17 時)に占有使用できるようであれば、新たに PC をご用意いただく必要はございません。一方で、これから PC を新規にご購入されるようでしたら、以下の要件をご考慮いただきたく思います。各要件の簡単な説明を裏面に載せていますのでご参照ください。

<最低限の要件>

OS: Microsoft 社 Windows 11

Windows10 は 10/14 にサポート切れとなり、バージョンアップが必要です

メモリ容量: 8GB 以上

ストレージ容量: 100GB 以上

画面解像度: 1920×1080 ピクセル以上

入力装置: 一般的なキー配列のキーボード
(右図をご参照ください)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	-	^	¥						
	Q	W	E	R	T	Y	U	I	O	P	@	[							
	A	S	D	F	G	H	J	K	L	;	:	]							
	Z	X	C	V	B	N	M	,	.	/	\								

図: 一般的なキー配列

<推奨する要件>

ストレージ種類: SSD を強く推奨

形状: いわゆるノート型を推奨

画面サイズ: ノート型であれば、11 インチ～14 インチを推奨

メモリ容量: 16GB 以上を推奨

ストレージ容量: 250GB 以上を推奨

なお、メモリ容量は多ければ多いほど快適に使用でき、ストレージ容量は多ければ多いほどたくさんのデータやソフトウェアを格納でき、高学年になっても空き容量の心配をしなくて済みます。上記要件には含めていない CPU についても、高性能なものほど快適に使用できます。ご予算の許す範囲で、なるべく高性能なものをご購入いただくことをお勧めします。

また、いわゆるオフィスソフトと呼ばれる文書作成や表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアについて、**本校在学中は Microsoft 社の Word や Excel, PowerPoint など**を個人所有の PC でも無料で使用できる手筈となっております。これらのソフトウェアをご用意いただく必要はございません。とはいえオフィスソフト込みで販売されている PC をご用意いただいても、まったく問題ありません。

以上、どうぞよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先:

電子制御工学科 沢口 (電話: 0438-30-4115, 電子メール: sawaguti@d.kisarazu.ac.jp)

※ 各要件の説明

OS(基本ソフト): 電子制御工学科の授業や実験実習では、Microsoft 社 Windows11 を OS とする PC を使います。学校で使用しているソフトウェアをご自分の PC に入れることもありますが、異なる OS (特に macOS や ChromeOS) の PC には入れることができない場合があります。

メモリ(主記憶装置, RAM とも)容量: PC が同時に取り扱える情報量を意味します。このメモリ容量が不十分だと、使い方によっては PC の動作が非常に遅くなります。最低限の要件には一般的な利用法であれば著しい問題は生じない容量を、推奨する要件には一般に負荷が大きいとされる動画編集や仮想計算機の利用などでも対応できる容量を挙げています。

ストレージ(補助記憶装置)容量: PC に溜めておける情報の量を意味します。OS や授業で使うソフトウェアに必要な最低限の容量として、100GB という要件を設けました。その他のソフトウェアを導入したり、大量のデータを扱おうとすると、より大きな容量が必要となるため、250GB 以上を推奨要件としています。

画面解像度: PC の画面は、発光する点(ピクセル)の集まりで構成されています。画面解像度とは、この点の個数を意味します。画面解像度が高い方が、一度に多くの情報を表示できます。資料を表示しながら同じ画面で作業するときなど、画面解像度が高い方が使いやすくなります。

入力装置: 電子制御工学科では、文書作成やプログラミングの効率化のために、手元を見ずにキーボード入力をするタッチタイプを1年生のうちに習得することとしています。自身が所有する PC でもタッチタイプの練習ができるよう、キーボードに関する要件を設けました。なお小型キーボードなどで特殊なキー配列のものは、タッチタイプの習得が困難となるため、なるべく避けてください。

ストレージ(補助記憶装置)種類: PC に情報を溜めておくための装置として、HDD と SSD があります。HDD は高速回転する円盤に、SSD は半導体素子に情報を格納します。SSD には機械的動作する部分が無く、無音で高速に情報を読み書きできるという利点があります。HDD に比べると高価になりますが、ストレージの読み書き速度が PC の使用感に大きく影響するため、SSD を強く推奨しています。

形状: 実験実習や卒業研究などで、測定結果をその場で PC に記録するなど、学校に PC を持参できると便利な場面が多々あります。このため持ち運び可能で、かつ、キーボードを有するノート型を推奨しています。

画面サイズ: ノート型 PC について、画面サイズが小型のものはキーボードのキー配列が特殊なものが多く、画面もやや見づらい傾向があります。一方で画面サイズが大型のものは持ち運びしづらくなります。これらのバランスを踏まえて、画面サイズとして11インチ～14インチを推奨しています。